

乾草・ロールベール専用イタリアンライグラス 「ドライアン」の特性と栽培利用事例

雪印種苗(株) 千葉研究農場

作物研究室 小 楨 陽 介

はじめに

昨年から中生で細葉・細茎の乾草利用向き品種「ドライアン」の販売を開始し、実際に利用された農家の方々から、乾きが早い、倒れがなく収穫しやすいなど好評いただいています。ここでは、改めてドライアンの品種特性と栽培方法及び栽培利用事例について紹介致します。



写真1 ドライアン草姿



写真2 ドライアン茎葉
(左側：コモン 右側：ドライアン)

1 品種特性

1) 乾きが早く、乾燥やロールベール・ラップサイレイジに最適

ドライアンは、細葉・細茎の特徴的な草姿で刈取り後の乾燥が早いことが一番の特長です(写真1,2)。また、天候が安定し気温も高くなるゴールデンウィーク前後(西南暖地4月下旬,関東5月上旬)に出穂し、刈り取り適期となることから、乾草やロールベール・ラップサイレイジ利用に特に適しています。

ロールベール・ラップサイレイジ利用では、原料草の水分は50~60%が最適とされますが、ドライアンは刈り取り後、その適水分域までに要する時間が、コモンと比べ半日以上早く、短時間の予乾で調製できます(図1)。このことは、収穫・梱包までに雨にあたるリスクを減少させ、反転作業も少なくすむなどの利点となります。また、細茎でしなやかなため、ロールベールの巻込み密度が高くなり、良質のサイレイジ調製が期待できます。

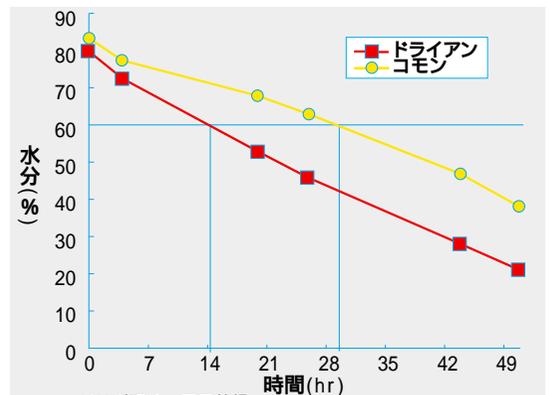


図1 乾燥速度の品種間差 (平成9年 宮崎現地試験)



写真3 ドライアンは倒伏に強い（左側：コモン）

乾草利用についても、好天が続けば3日程度で水分が18%以下となり、梱包・収納できます。

2) 倒伏に強く、刈り取りしやすくロスが少なく多収

タチワセやタチムシャと同様に直立型で、倒伏に強く、コモンが出穂前に倒伏してしまうのに対し、ドライアンは収穫時期（出穂期）になっても倒れないので、収穫作業が容易です（写真3）。

機械による収穫の際、コモンは倒伏に弱いため地際部分の刈残しが多くなりますが、ドライアンは倒伏に強いいため刈残しが少なく、多収となります（写真4、5、表1）。

また、ドライアンは、倒伏に強いいため株元のむれが無く、再生が良好で、2番草も多収となります（写真6）。

2 栽培方法

1) 播種時期

春1番草の収量を安定的に確保するために、下記を目安に適期播種を心掛けて下さい。

西南暖地 10月上旬～11月上旬

関東 9月下旬～10月下旬

表1 ドライアンとコモンの機械収穫における収量性の比較
(平成14年宮崎研究農場)

品種名	乾物収量 (kg / 10 a)					収穫ロス割合 (%)
	機械収穫	同比	収穫ロス	総量	同比	
ドライアン	822	130	163	985	112	16.6
コモン	632	(100)	245	877	(100)	27.9

注) 機械収穫：モアで刈高9cmで収穫した収量。
収穫ロス：刈高9cmで収穫後、刈り残しの部分を刈高3cmで収穫した分。



写真4 ドライアンの刈り取り跡
(刈り残しが少ない)



写真5 コモンの刈り取り跡
(刈り残が多い)

2) 施肥量(目安)

10a当たり堆肥3～4t、石灰100～200kgを標準として投入し、元肥として窒素・りん酸・カリをそれぞれ4～5kg程度施用します。刈り取り後には、追肥として窒素とカリを3～4kg程度施用します。

3) 播種量

2～3kg/10aを標準とし、発芽・定着を良くするために、できるだけ播種後の鎮圧など基本技術を励行して下さい。播き遅れや土壌条件が悪い



写真6 ドライアンは倒伏による株元のムレがなく、再生が良好（右側：コモン）

場合は3～5割増量して下さい。

3 栽培上の注意点

ドライアンは関東以西の冬作用として広く利用可能ですが、耐雪性はあまり強くありませんので、根雪日数が80日を越えるような地域での栽培は避け、エースやナガハヒカリなどの耐雪性の強い品種を利用して下さい。

また、晩秋や晩春から初夏に多発する冠さび病に対する抵抗性は中～強で、タチワセなどの早生品種より強いので、9月播きや春遅くまでの利用にも適します。しかし、西南暖地では、いもち病などによる立枯れの心配もあるので、極端な早播きは避け、九州南部での播種期は9月下旬以降が良いでしょう。

4 栽培事例

1) 都城市上長飯町 栗山純彦さん(和牛農家)

昨年約1haにドライアンを作付し、2月に1番草、5月に2番草を収穫し、乾草調製した。従来利用していたコモン(普通種)と比較し、倒伏が無く収穫し易く、また再生が良好で3番草まで利用できたと好評でした(写真7)。

2) 都城市上長飯町 江口幸一さん(和牛農家)

昨年約1haに作付し、2月にロールペールサイレージ、5月にロールペールサイレージと乾草を調製した。従来のコモンより水分落ちがかなり早く、乾草調製する際、コモンだと4日かかっていたのに対して、ドライアンは3日で梱包・収納ができたとのことで、かなり乾きが早かったとの印象を持たれていました。

3) 都城市上長飯町 長友六男さん(酪農家)



写真7 ドライアンの乾草を食べる和牛
牛の食い込み良好



写真8 細山田さんご夫妻とドライアンの乾草

以前は早生品種を栽培されており、収穫時期のナタネ梅雨でなかなか良質のサイレージを調製することができなかったとのことでしたが、今回ドライアンを栽培したところ、倒伏が無く、乾きが早く、晴天時に刈り取りができたことでもあります。倒伏によるむれがなく、乾きが早かったため、半日でペール梱包できるほど水分が落ち、おかげで良質のロールペールサイレージが調製できたといへん満足されていました。

4) 都城市野々美谷町 細山田満盛さん(和牛農家)

昨年約0.5haにドライアンを作付し、3月に1番草、5月に2番草を収穫し、乾草調製した。昨年は、収穫時期の雨で良い乾草が取れなかったが、今年は晴天時に刈り取りができ、乾きが早く、良い乾草が取れたと満足されていました(写真8)。

5) 北諸県郡三股町 北畑和徳さん(酪農家)

2年前にドライアンを試作していただき、ロールペールサイレージ調製した。乾きが早く、良質のサイレージが調製でき、そのサイレージは、茎葉が軟らかくて牛の食い込みが良かったとのことで、牛の嗜好性が良かったとの印象を持たれていました。

良質のサイレージや乾草を作るには、栄養価の高い時期(出穂始～出穂期)に収穫し、いかに早く水分調整するかにかかってきます。ドライアンはこれまでにない乾きの早い品種ですので、ロールペール・ラップサイレージや乾草を短期間で調製することができます。今まで、乾きが遅く、ロールペール・ラップサイレージや乾草調製がうまくできなかった方にぜひドライアンをご検討いただき、良質の自給飼料を調製されることを期待しております。